

であると考えられています。

日本列島付近は、二畳紀の末期から始まった“本州造山運動”と呼ばれる大きな造山運動によって隆起を始めました。

### 3、くびなが竜が泳いだ“いわきの海”

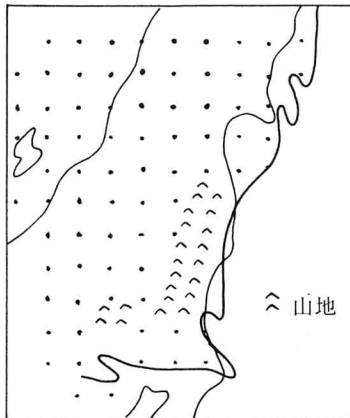
(中生代：2億2500万年～6400万年前)

古生代末から始まった造山運動によって、隆起や沈降を繰り返しながら、大陸の一部となり日本列島は陸化していききましたが、ジュラ紀に入ると、日本海側から海進

が始まり(現在の日本海のもとになる)、陸地の一部は沈降をはじめ、太平洋側の海岸線にも入江ができたりして、海岸線がデコボコになりました。

この時期、福島県内では、阿武隈山地東縁部が再び海底に沈み、ジュラ紀から白亜紀にかけての地層がたい積しました。

ジュラ紀の地層は相馬中生層と呼ばれるもので、原町市から新地町へ10数Kmにわたり帯状に分布しており、地層からはアンモナイト、トリゴニア、ソテツ類、シダ類などの化石が見つっています。

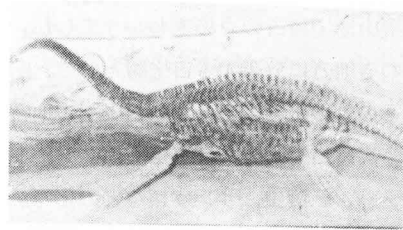


第三紀以前の日本列島

また、四倉町から富岡町にかけて、くさび状に10数Kmにわたって双葉層群と呼ばれる白亜紀の地層が分布しており、これらの地層からは、巨大アンモナイト、イノ

#### くびなが竜の発見

昭和43年10月6日、当時平工業高校2年生の鈴木直君によって、いわき市大久町入間沢の橋より数百m上流の川床で発見された。



フタバスズキリュウの骨格模型 (いわき市文化センターにて)